

第2章 男女共同参画を推進する団体等への調査

1 アンケート調査結果の概要

(1) 地域で男女共同参画を推進していく上で主な課題は何か（自由記述）

*複数の項目に含まれる記述は、それぞれの項目に分類した。（重複あり）

<団体としての課題> 84 団体中 36 団体回答

会員の高齢化	9 団体
人員不足・人員減少	8 団体
人材確保・若手の加入を増やしたい	5 団体
人材育成	3 団体
男女共同参画の視点、意識の普及	3 団体
男性の参画	2 団体
活動資金	2 団体
その他	10 団体
・「ダイバーシティ」と「男女共同参画」が別ものように受け取られない伝え方	
・“LGBT”を特別視されないよう、啓発の手段や方法に工夫が必要	
・活動場所（アロマはだめというところが多い）	
・託児手配や集客	
・NPO とかでなく市民団体なので声をかけてもらえない、知名度がない。	
・学習のテーマが決まらないこと	
・新型コロナの影響で活動を自粛している	
・会員の情報共有	
・関係者の就業	
・交通手段に配慮	

■主な課題は「会員の高齢化」と「人員不足、人員減少」「人材確保」

(1) 団体の「会員の高齢化」及び「人員不足、人員減少」「人材の確保」を課題として挙げた団体が回答の 52.4% を占めた。

(2) なお、「人員不足等」に関連し、男性の参画や人材育成も課題として挙げられた。

<行政との連携に関わること> 84 団体中 24 団体回答

連携がうまくいっている	4 団体
連携がない・少ない	4 団体
行政の意識・やる気	4 団体
必要な情報提供	3 団体
その他	9 団体
・受託団体としての采配に期待	
・行政（生涯学習課）より委託事業を積極的に行う	

- ・一時より男女共同にたずさわる課、係が縮小されていると感じる。
- ・継続すること
- ・まずその男女共同参画って言葉を地元の人が知らない可能性が高い
- ・NPO とかでなく市民団体なので声をかけてもらえない、知名度がない。
- ・大部分のクローゼットの当事者にとって、要望や意見は容易にあげられるものではないが、要望がない・前例がないと判断されること。
- ・地域に小規模の集会所
- ・行政との連携を支援する健聴女性の人材育成（意思疎通支援者の育成）

■行政との連携、協働、関係の持ち方は連携等の活動実績の有無による

- (1) 団体と行政と連携した活動実績がある団体は、「連携がうまくいっている」(14.8%)と感じている一方、「連携がない、少ない」と回答した団体は14.8%であった。
- (2) また、行政職員の資質向上や人員・支援体制を指摘する記述もみられた。

<施設との連携に関わること> 84 団体中 18 団体回答

連携がうまくいっている	3 団体
施設の使用料が有料	2 団体
会場予約の期間	2 団体
その他	11 団体

・ 地域の実情に応じた実践的活動をすること
 ・ 講座やイベント開催にあたっての広報、託児などの支援
 ・ コロナ禍で難しいとは思いますが、研修等の企画
 ・ やりたい活動が行えない、団体の収入となる活動が収入＝営利活動と見なされてできないなど。
 ・ 施設は部屋貸しのみで支援について感じられない
 ・ 協力できることは協力していきたい
 ・ お互いに連絡をとる必要がある
 ・ アピオは遠く、講座に会員が参加するのは難しい
 ・ 施設と連携したことはない
 ・ NPO とかでなく市民団体なので声をかけてもらえない、知名度がない。
 ・ 医療機関において、特に生活を共にする同性パートナーが入院した際でも、家族と同等に付き添いや面会をするための方策がほとんどない（急病を想定して前もって公正証書を交わすなどは、一般的には考えにくい）。

■施設との連携、協働、支援の仕方について

- (1) 利用施設と「連携がうまくいっている」と感じている団体は13.0%、「施設の使用料が有料」「会場予約の期間」を課題とする団体は8.7%にとどまった。
- (2) 施設利用に際して、会場の使用のほか、施設主催の事業への参加、支援の仕方などについての記述もみられた。

<その他> 84 団体中 5 団体回答

- ・市民活動支援の目線を大事に今後もよろしく
- ・若年層を巻き込むための活動テーマ設定がうまくいかない、協力体制はある
- ・市民度・県民度の向上
- ・大部分の人にとって、男女共同参画やダイバーシティが「他人事」であること
- ・男女それぞれ個々の意識を変えること

(2) 課題を解決する方策や必要な支援は何か (自由記述)

*複数の項目に含まれる記述は、それぞれの項目に分類した。(重複あり)

<団体としての課題> 84 団体中 25 団体回答

広報活動・加入呼びかけ	6 団体
学習機会の確保	3 団体
若年層との連携・企画	3 団体
団体内で情報共有・確認	2 団体
人員を増やす	2 団体
方策はない・難しい	2 団体
その他	9 団体
<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティに関わる他分野の団体との連携や協力 ・市民団体でも協働できる企画の提案 ・意識の状況、固定的な役割分担意識を変えること ・子育て、家事などが優先となり、活動から離れていく。男女共同参画の根底課題。 ・男性に職業上の余裕を持ってもらう社会、地域づくりを進めてもらいたい。 ・その会場の決まりごとは受け止め、新たな方法はないかと考える。 ・従前の「当たり前・当然」感をどう乗り越えられるかを都度考えています。 ・リーダー、役員力量不足。 ・マスク着用し、部屋の換気をする、今まではおやつなどつまみながら相談などしていたが、会食しないで活動する 	

■解決のための主な方策は「学習機会の確保」と「若年層との連携」、「広報活動」

- (1) 会員の「高齢化」「人員不足、人員減少、人材の確保」等の課題に対する解決策として「広報活動」(24.0%) 「学習機会の確保」(12.0%)、「若年層との連携」(12.0%)、が挙げられた。
- (2) また、学習会等を通して、現会員の資質や意識の向上を図ることも挙げられた。
- (3) 一方、課題解決の方策が見つからない、難しいとする記述もあった。

<行政との連携に関わること> 84 団体中 17 団体回答

一緒に事業や学習会を行う、参加し合う	3 団体
密に連絡、対面での相談を重ねる	2 団体
情報の共有・発信	2 団体
必要に応じて関連部署の紹介	2 団体
その他	8 団体

- ・やる気のある行政マンを育てる上層部の意識改革
- ・行政からの受け身ではないアクション（制度や条例などを利用し、少数者について行政がその存在を認めていることを公に示すこと）
- ・補助金等の支援がより多様になること、手続きが手軽になること
- ・従前の「当たり前・当然」感をどう乗り越えられるかを都度考えています
- ・連携をとってできることがあるのか考えてみたい
- ・人材を育成するための指導者やサポート環境
- ・女性の活躍の場を増やして欲しい
- ・なかなか難しいと思います。勉強会をひらいても参加者がいないと思う。

■解決のための方策として、「一緒に事業・学習会を行う、参加し合う」「密に連絡」「情報共有」など。

(1) 行政担当者と団体会員等の「対面での情報交換・共有」が挙げられた。また、団体から行政の情報把握に努めることや団体の情報発信を強化する記述もあった。

(2) 「団体の活動に行政職員が参加」することで、つながりができ、その後の連携につなげたいとする記述もあった。

<施設との連携に関わること> 84 団体中 15 団体回答

施設の使用料減免・免除 3 団体

その他 12 団体

- ・従前の「当たり前・当然」感をどう乗り越えられるかを都度考えています
- ・施設担当者との連絡を密にし連携を図る
- ・今後も継続して主催事業について紹介していただきたい
- ・市民団体でも協働できる企画の提案
- ・計画的に実行すれば協力は得られる、だが課を結びつけるのが団体の役目
- ・公民館の講座にとり上げてもらっている
- ・施設との連携の例があれば参考にしたい
- ・手軽にイベントが開催できる機会、託児手配
- ・ZOOMの研修を多くする工夫
- ・サービス向上
- ・ここで「施設」と表現することに違和感がある。施設(センター)の役割について運営者がどのように考え、活動、支援していこうとしているかが明確ではないことが問題ではないか?今の施設は講座をこなすだけにしか感じられず期待できない。もっと民間団体の力をかりながら共に育つという姿勢こそが大事ではないだろうか。
- ・同性パートナーに限らず、コロナ禍で家族の一部のみしか面会できない状況であるが、実態や現状に即した対応がされるよう医療機関等に合理的配慮をお願いしたい。

■「施設の使用料減免、免除」と連携のあり方

(1) 「施設の使用料減免・免除」について 16.6%が回答。また、施設の主催事業に団体が参加することや、参加しやすい、参加したいと思う研修等の充実を図る意見がみられた。

(2) 団体の事業を施設の講座として実施している例や、施設主催の事業に連携、協働という形で団体に関わる

などの記述もあった。

<その他> 84 団体中 10 団体回答

- ・人口が減少しているので会員を増やすことが大変
- ・連絡をいつでもしっかり取る、各行事に少しでも多く参加してもらう。
- ・会員の望む活動内容、時間帯と、若年層の望む内容、時間帯との調整
- ・SDGs の 17 のゴールは、それぞれ個別には達成できない。どの分野も横断しながら、互いに作用しているので、総合的に進めていくことの重要性をもっと多くの人に知ってもらう必要があると思う。
- ・自尊感情を高める講座とアサーティブの講座が必要
- ・従前の「当たり前・当然」感をどう乗り越えられるかを都度考えています
- ・わたしの要求度が高すぎるだけか

(3) 団体の活動を維持するコツ、工夫していること 84 団体中 47 団体回答

強制や無理をしない	11 団体
意思疎通・話し合い	9 団体
楽しむ	8 団体
学びの場・講座の開催	5 団体
会員間の交流	5 団体
部会・実行委員等複数名で運営	2 団体
その他	12 団体

その他 12 団体の回答内容:

- ・会員団体は各々、活動目的があるので、その上での男女共同参画活動であることを踏まえて、活動内容、回数を考えて実施している。
- ・身近にあるもの課題を取り入れてみる事が大切です。
- ・コツコツ活動する、堅実な運営
- ・活動に来なくなった方への、誘うタイミングや声かけを工夫している。会員の減少による活動への支障がありますが、一人ひとりのいろんな変化があるのではないかと考える。
- ・部員が高齢のため停滞しているので若い人の入部をすすめる
- ・年会費を高くしない、参加する時に見合った参加費を支払う
- ・特に変わったことはしていないつもりです
- ・当団体構成が、「町内各女性団体の代表」と固定されているので、各団体が存続している限り維持はできている。
- ・県内で広く活動する会員のネットワークを活かし、行政や企業・団体そして地域の皆さんとパートナーシップをとって活動していること。
- ・「昨日より今日、そして明日へ」視線を如何に活動に反映していくのか、の精神が「新しい『男女共同参画』のうねりをつくる！」の気持ちで…。
- ・幹部がしっかりと団員を守り、力になる
- ・使命感のみ

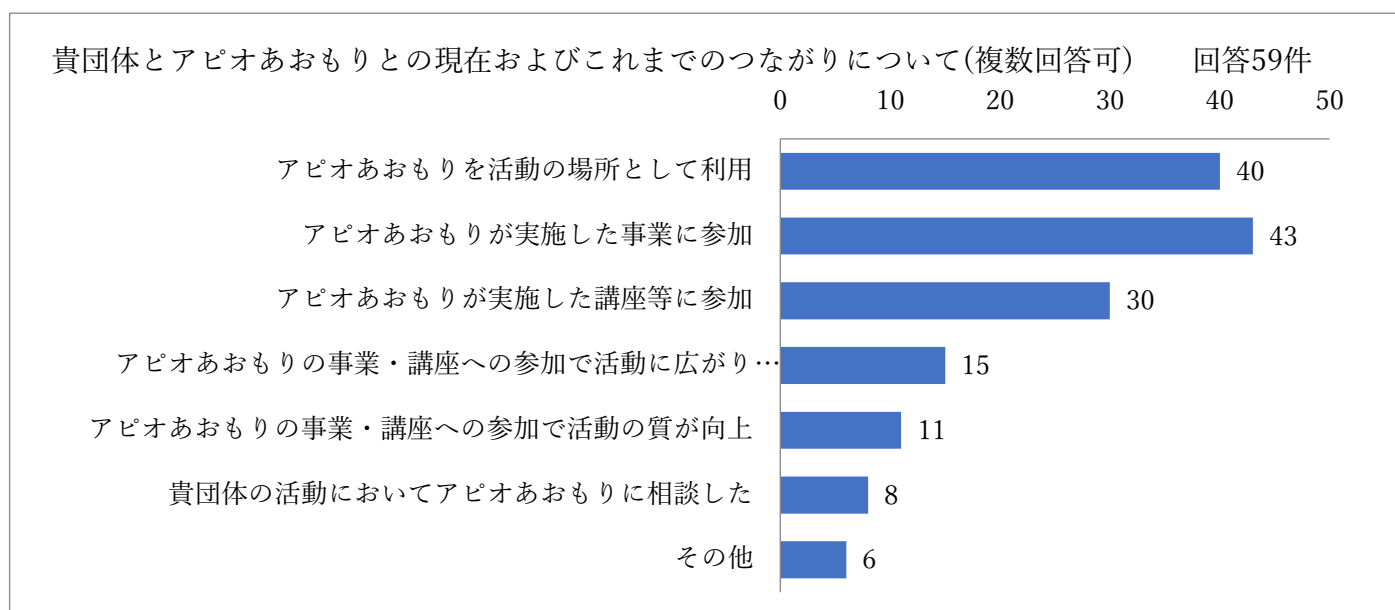
■ 団体活動の維持には「強制や無理をしない」「楽しむ」「意思疎通・話し合い」「学びの場の開催」

(1) 団体活動を維持するコツとして、「強制や無理をしない」(23.4%) が最も多く、次いで「意思疎通・話し合い」

を図る (19.1%)、「楽しむ」(17.0%)、「学びの場の開催」(10.6%)、会員間の交流 (10.6%) と続いた。
 (2) また、会員間の交流や部会等の設置により、会員が主体的に会の運営に関わること、複数名で運営することなどマネジメントの工夫についての記述もみられた。

(4) 貴団体とアピオあおもりとの現在およびこれまでのつながりについて (複数回答可)

アピオあおもりを活動の場として利用	40 団体	67.8%
アピオあおもりが実施した事業に参加	43 団体	72.9%
アピオあおもりが実施した講座等に参加	30 団体	50.8%
アピオあおもりの事業・講座への参加で活動に広がりがあった	15 団体	25.4%
アピオあおもりの事業・講座への参加で活動の質が向上	11 団体	18.6%
貴団体の活動においてアピオあおもりに相談した	8 団体	8.0%
その他	6 団体	10.2%



(5) 地域男女共同参画ネットワークの活動を行っていく上での主な課題は何か

※地域男女共同参画ネットワーク加入団体対象 加入団体 23 団体中 16 団体回答

団体の代表 (事務局)、市町村事務局の持ち回り制	4 団体
関心がない、必要性が理解されていない	3 団体
日程が合わない	2 団体
他団体との意欲等の温度差	2 団体
その他	6 団体

・三八地域の町村の加入団体が少なく活動が広がらない

・地域では男性・女性あまり区別していない子育ての場面で活動しているので、実際に参加する時に男性が女性がと区別される話になるとどうすればいいものか、逆に分からなくなります。

・各々の地域のもつ空気をよく読み、地域に合った活動を提供する、現状より少しの向上をめざす、離れすぎると継続できないので。

- ・行政と民間団体の連携が不十分。とくに行政担当者の男女共同参画に関する基本的な知識が不足していると思う。そのために何をすればいいのかアイデアが出てこない。
- ・ネットワークがあることで、活動の地域が広がることはよいと思うが、人的交流がなかなかできていないと思う
- ・行ってみたいと思えるような活動があると参加人数も増えると思います

(未加入団体の意見)

- ・ネットワークについて受けたい講座を公聴できる機会があればいいと思う。
- ・地域間の交流会イメージを感じます。もっと広い視点での県域課題を相互に議論しあって、課題解決への成果をめざす活動でありたい。

■主な課題は「団体の代表（事務局）、市町村事務局の持ち回り制」、「関心がない、必要性が理解されていない」

- (1) 主な課題として、地域男女共同参画ネットワークの「団体の代表（事務局）、市町村事務局の持ち回り制に関すること」、そして地域内で地域男女共同参画ネットワークについて「関心がない、必要性の無理解」、そして、活動にあたって日程調整の困難、加入団体間の意欲等の温度差などが挙げられた。
- (2) また、加入団体の減少や代表及び事務局の持ち回り制による負担、行政と団体の連携不十分なども挙げられた。

(6) 上記の課題を解決する方策や必要な支援等

※地域男女共同参画ネットワーク加入団体対象 加入団体 23 団体中 16 団体回答

男女共同参画の視点をもつ	4 団体
行政担当者・会員同士の交流	4 団体
関係者の意識向上	2 団体
財政補助・支援	2 団体
その他	5 団体
<ul style="list-style-type: none"> ・数ヶ年計画でのネットワークの具体的な目標を定め、所属団体に関係する事業を提案していただくバックキャストによる計画の推進。SDGs の説明や、関係する事例紹介など。 ・加入団体個々に活動できるプログラム作り ・行ってよかったという思いを持てるような行政支援 ・前回の当番会長を行った際も行政に協力してもらいました。アピオさんのおかげで研修会も無事終わりました。大きなバックアップがなかったら私達だけでは無理でした。 ・地域柄で仕方ない気もする 	

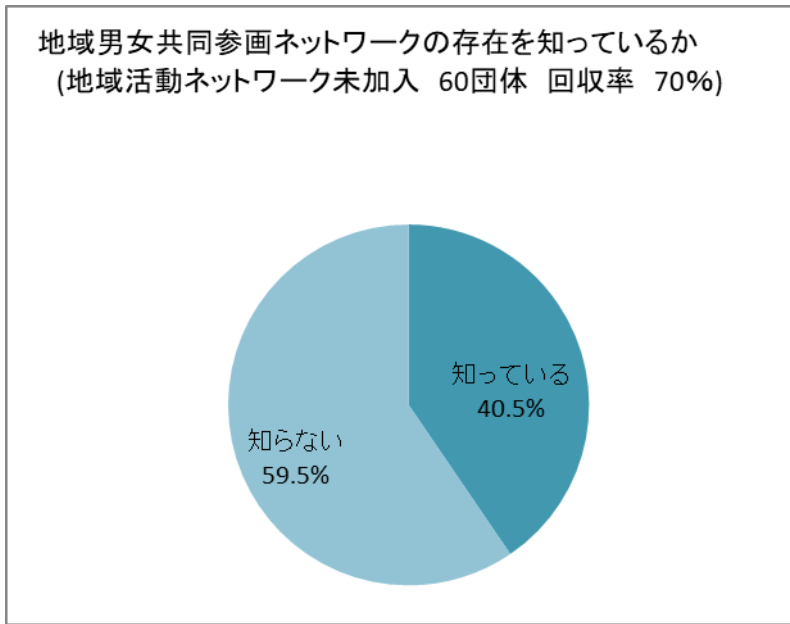
■課題解決に必要な主な方策は、「男女共同参画の視点」、「行政担当者と会員の交流」

- (1) 解決に必要な主な方策として地域内で男女共同参画の視点を持つ人、団体を増やすこと、そして男女共同参画の視点を持ち、加入団体がネットワークの活動を運営していく主体となることなどが挙げられた。
- (2) また、市町村担当者と団体の交流、団体間の交流を活発に行う場なども挙げられた。
- (3) 行政や男女共同参画センターの経済的な支援や交流、学びの場づくり等を望む意見もあった。

(7) 地域男女共同参画ネットワークの存在を知っているか

※地域男女共同参画ネットワークに加入していない団体対象 (60 団体中 42 団体回答)

知っている	17 団体	40.5%
知らない	25 団体	59.5%
計	42 団体	100.0%



(8) 地域男女共同参画ネットワークに加入したいか

※地域男女共同参画ネットワークに加入していない団体対象 (60 団体中 40 団体回答)

加入したい	1 団体	2.5%
加入の検討をしてみたい	13 団体	32.5%
加入するつもりはない	7 団体	17.5%
わからない	19 団体	47.5%
計	40 団体	100.0%

加入するつもりはない「理由」 7 団体中 6 団体回答

余力がない	4 団体
男女共同参画の活動以外が主力	2 団体

■地域ネットワークへの加入について

- (1) 地域ネットワークの存在を知らない団体 (59.5%) が知っている団体 (40.5%) を上回った。
- (2) 加入の意向については、「わからない」(47.5%) が最多で、次いで「加入の検討をしてみたい」(32.5%)、「加入するつもりはない」(17.5%) と続いた。「加入したい」と答えた団体は1団体 (2.5%) にとどまった。

地域男女共同参画ネットワークに加入したいか
(地域活動ネットワーク未加入60団体 回収率66.7%)

